

## 高等学校グランドデザイン会議第3回東青・下北地区部会概要

日時：平成19年 2月16日(金)

13:00～15:00

場所：むつ合同庁舎中会議室

### <出席者>

佐々木昭則部会長 遠島副部会長 石橋委員 木村委員 工藤委員 佐々木司委員  
馬場委員

### 開会

#### 司会

それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議 第3回東青・下北地区部会」を開会いたします。次第によりまして、検討会議及び専門委員会の概要説明ですが、検討会議について佐々木部会長から説明をお願いします。

#### 検討会議・専門委員会概要説明

#### 【部会長から、配布資料に基づき説明】

#### 司会

続きまして、専門委員会について事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局から、配付資料に基づき説明】

#### 司会

それではもう1点、校舎制について事務局から説明させていただきます。

#### 事務局

校舎制については、現在グランドデザイン会議の第1専門委員会及び第2専門委員会で検討されていて、報道の際には様々な見出しがあり、校舎制の学校がすぐに無くなるという印象を与えるものがいくつか見られました。しかし、校舎制は、第2次実施計画の中で、1学級規模になる学校について教育内容の充実・支援を図り導入したものですので、決して統廃合を前提とした制度ではありませんし、現在、様々な検討をしてもらい意見を伺っている所です。

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは佐々木部会長に進行をお願いしたいと思います。

## 意見交換

佐々木部会長

それでは、本日は資料3と資料5により、各専門委員会で検討された事項について地区の皆さんの意見を何うという形になると思います。各専門委員会から与えられた事項は、大きく分けて4つあります。校舎制と定時制と中高連携と高大連携です。これらについて意見をいただきますが、校舎制と定時制についてはいくらか話しやすいでしょうが、それ以外は難しい部分がありますので意見と言っても難しいかもしれません。大まかな目安として、校舎制と定時制について意見をいただいて、その後に小休止としたいと思います。よろしくお願いします。

資料3を見ると、まず校舎制の今後の在り方について、検討委員会の検討状況が記載されています。乱暴な括り方かもしれませんが、原則として存続するべきではない、統廃合もやむをえない、という意見が大半だと捉えました。ところで、皆さんは校舎制そのものについて、十分理解できていますか。分校と同じ部分に加えて、本校との関わりが若干強まるというニュアンスで捉えていいと思います。本来の校舎化は、例えばA高校と、A高校のB校舎C校舎を全体で1つの学校として捉えて、BキャンパスやCキャンパスがそれぞれ特色ある教育をする事で、A高校全体ではかなり教育効果が上がる、というイメージが本来の校舎制だと思います。しかし、地域の理解やスタッフの数から、現在の校舎制は分校の色が強いイメージで捉えていいと思います。ですから、第2次実施計画の議論を踏まえても、存続するべきではないという意見です。

ただし、新聞で志願倍率を見ると、校舎制の対象になっている学校でも現時点では概ね倍率が高いですので、これも考える要素になると思います。

A 委員

この下北むつ地区で、校舎化になる学校は川内高校と大畑高校しかありません。志願倍率を見ると定員を超えています。我々はこの両校をどう捉えるといいのかという事になるのだと思います。まず、大湊高校は普通科ではなく総合学科という形である訳ですが、川内校舎は普通科です。本校は総合学科で校舎が普通科であるという事について、どう見ればいいのでしょうか。また、大畑校舎も普通科ですが、統廃合の対象となると捉えていいのではないかと思います。前も話しましたが、統廃合はするのですが、交通の便が不便な所については県がスクールバスを出す等の手立てを考えなくては、地域住民全員の理解は得られないでしょう。それを前提にするのであれば、統廃合もやむ

をえません。ほとんどの委員がそういう意見なのではないでしょうか。従って、どう推移するのかわかりませんが、川内高校と大畑高校については、普通科の田名部高校を本校とする方向の考え方をすればいいのではないのでしょうか。

下北むつ地区は特殊で、地域的には離れ小島なのです。専門高校は工業高校1校しかありませんし、普通科は田名部高校しか無くなります。目標を持った生徒は別ですが、他の5地区と比べて離れていて、この地域から青森市や八戸市へ通学はできませんので、この地域で何とかするように考えるべきでしょう。

#### 事務局

校舎制に関しては、下北むつ地区では大畑高校と川内高校が対象ですが、他に東青地区では今別高校が平成19年度、平内高校が22年度から校舎化する計画になっています。

#### 佐々木部会長

東青・下北地区部会での対象校はその4校ですが、本日お集まりの委員を見ると東青地区からは2人だけで後の皆さんは下北地区からですので、大体的話は下北地区の大畑高校と川内高校を念頭に置いた流れになるのでしょうか。今話したように、下北むつ地区に限定して考えると他の5地区とは離れているという特殊性がありますので、この地区の高校教育の在り方はこの地区の中で何とかしなくてはいけないという意見です。将来的に交通網の発達が考えられたとしても、やはり離れているという感じがします。

#### B 委員

校舎制についていずれは見直すべきだと考えていますが、やはり通学に対して、生徒は勿論ですが保護者の負担も考えながら進めなくては強い反発を受け、下手をすると高校進学をどうしようかと考える可能性も出てきます。東青地区では今別高校と平内高校ですが、幸いどちらもJRで通学可能な地域ですので、地元の方々や保護者と話し合えば意外とそれ程難しくなく解決できるのではないのでしょうか。校舎制では生徒会活動や部活動等が困難な状況が生まれます。やはり、楽しい高校生活を送らせるためには、通学に時間はかかってもある程度の規模の高校で高校生活を送らせる事です。そのためには、統合もやむをえないという考えを持っています。いずれにしても、まず第一条件として生徒や保護者の負担を一番に考えて話し合いを進めなくてははいけません。

#### 佐々木部会長

今別や平内からはJRを公共交通機関として青森市に通学できますし、現在でも目的を持った子は青森市に通学しているという現状がありますので、下北むつ地区に比べると理解を得やすいのではという話でした。問題は下北むつ地区だろうという感じがします。やはり、全体の理解を得るためには何とか手当を考える必要があるのでしょうか。

## C 委員

下北むつ地区では川内高校と大畑高校が校舎化するのですが、やはり公共交通機関が非常に不便である事が1つあります。また、スクールバスや親の送り迎え等についても相当な負担があります。校舎化の学校について、募集定員の何割を切ったら廃校という事が先日の新聞に出ていましたが、昨日出た志願倍率を見るとまだまだ1倍を超えているようです。統廃合するにしても、ある程度は基準をはっきりしておかないと理解が得られない部分があると思います。校舎化した学校の志願倍率が基準になるのかは今後の検討なのでしょうが、ある程度の基準を作っておかなくては地域の理解を得るのが非常に難しいと思います。

少し話が離れますが、先日、むつ市における今後の小学校や中学校の新入生数を見せてもらいましたが、今は大体1学年700人くらいで推移しているのですが、7年後には約100人少なくなり、更に7年後には500人くらいまで少なくなります。そういう意味では、高校の今の人数では倍率は1を超えなくなるでしょうが、その辺の基準はある程度は明確にしておかないと難しいと思います。

## 佐々木部会長

子どもの数が全体的に減るという事ですね。話にも出ましたが、前期後期の入試制度になっていますので、前期の志願倍率だけで判断する事は学校毎の条件の違いが見えにくいという危険性があります。例えば、2次調査では1次調査の倍率を見て調整され、余裕のあった学校の倍率が高くなるという危険性もありますし、私立高校との併願という事もあります。ですから、やはり前期後期のトータルで、最終的な入学者数が定員に達しているかどうか基準になると思います。先日発表された志願倍率は目安ではありますが、トータルで信頼できるかと言うと少し難しい気がします。

もう既に将来の話も出ていますので、2ページを見てください。今後の新たな導入の可能性という事ですが、統廃合の基準を設定するかどうかという意見が出ています。新たな校舎化は考えにくいという意見がメインだと思いますが、そうは言いながらも、中にはやはり校舎化もやむをえないという意見もあります。どちらかと言うと、新たな校舎化はいらぬという意見がメインだとは思いますが、そういう意見も踏まえながら、全体的な校舎制の今後の方向性という事で意見をいただきたいと思います。最終的には、統廃合はやむをえないが十分な手当が必要という事になるのでしょうか、少子化を踏まえ、新たに校舎制になる学校が出てくるのは望ましくない、という意見だと思います。

## A 委員

この地域では大間高校がありますが、今は2学級ですか。

## 事務局

今は3学級ですが、平成20年度には2学級になります。

#### A 委員

資料によると町村部の学校は最低限2学級で、どうしてもやむをえない所のみ特色を持たせ分校として存続させる、という意見があります。この地域で考えると、大間高校でしょうか。志願倍率は1倍を超えていましたよね。

#### 事務局

今の志願倍率では1.1倍です。

#### 佐々木部会長

特殊事情がある大間町が、この先子ども数が増える可能性があるという事はないですか。

#### A 委員

それはないでしょう。

#### 佐々木部会長

他の市町村と比べて特殊事情がある地域ですが、それでも人口が増える可能性はないですか。

#### B 委員

小学生がどんどん減って行く状況ですから、そのまま推移して行く事は間違い無いと思います。

#### 遠島副部会長

倍率だけでは判断できないのです。学校毎に前期と後期の募集割合を決められるので、前期の割合を下げると倍率は高くなりますから。

#### D 委員

生徒の絶対的な数が減って行く中で統合せざるをえない事は、総論では当然だと思いますが各論になると本当にそうなのかと思います。大間の特殊事情などを踏まえると、これから生徒数がうんと減った時に、校舎制を無くしてしまっても田名部高校へ行くしかないとなって本当にいいのでしょうか。高校だけは地元で頑張ってもらって、その代わりに大学だけは行かせてやる、経済的に苦しいのでそういう方向で考えている人もいます。ですから、通学の利便性だけでなく学力向上の機能を求めている父兄も多い、と書いていますが本当にそうなのでしょうか。地域によってはそうでない部分もあると思

ますので、そういう所は是非残れば良いと思います。学校経営をしながら、「教育は数でなく、お金でもなく、思いがあればこそ。明治維新の志士を見ろ。日本の端から風を起こしたのだ。」といつも言いながらやっています。今別高校などは小さな学校でもフェンシングなどは頑張っていると思いますし、そこで頑張っている子ども達を大事にして行かなくては、といつも感じています。

佐々木部会長

A 委員がおっしゃってるのは、大間高校が校舎化して残るという事に対する懸念ではなく、大間高校を校舎化してはいけないという事ですね。

D 委員

それは賛成です。

A 委員

大間高校の場合は非常に面倒だと思いますので、校舎化は避けたいです。

遠島副部会長

平成30年までの中学生の動向を調べたのですが、大間高校は2学級で残るだろうと試算しました。

A 委員

大間原発の関連企業でも来てくれるとまた別ですが。

佐々木部会長

1学級でなければ校舎化にはならないのですか。

遠島副部会長

そうです。2学級あれば校舎化にはなりません。

佐々木部会長

大間高校の将来性と言いますか、何十年か先の事を懸念するよりも川内高校と大畑高校についてです。確かに特殊事情のある地域ですから、新しい学科で特色を持たせるといって何とか2学級を維持する事を考えられないか等はあると思いますが、もう少し先の話という気がします。川内高校も大畑高校も行政区としてはむつ市ですが、中心から見ると遠いのですか。

A 委員

川内高校も大畑高校もむつ市の中心から30分くらいの所ですが、大間高校は話が違います。1時間以上かかります。

佐々木部会長

公共交通機関はバスですか。

C 委員

例えば、大間町や佐井村から田名部高校へ行く場合はどうなのでしょう。

D 委員

大間町からむつ工業高校へはバスがあります。先日たまたま前を通りかかったら、3時過ぎに生徒達が出てきてバスで帰るという事でした。工業高校で学びたいという目的を持って来ている生徒ですから、バスの中でもやりとりをして高校生活にある意味ではエンジョイしてるのかもしれませんが。また、脇野沢の子ども達が田名部高校へ行かなくてはいけないとなった時に、確かに通っている子どももいますので、普通と言えば普通なのかもしれません。

遠島副部会長

田名部高校に脇野沢や大畑からも来ています。逆に、旧市内から川内高校や大畑高校へも行っています。何で行っているかと言うと、最初に大規模校の学級減をしたので、市内の学校に入りたいけども定員が無いので外の高校へ行く状況になっています。

佐々木部会長

検討会議で原則とされている4学級以上が望ましいという事を考えると、本当は川内高校と大畑高校がむつ市内の学校に統廃合されて学級数を増やすという対応が可能なのでしょうか。

A 委員

統廃合となると、そうしてもらわないといけません。

佐々木部会長

そうなると、学校の努力としてスクールバス等の補助的なシステムが、何とか考えられないかとなるのですが。

A 委員

これは県費でやらなくてははいけません。学校を維持する事を考えると安いものです。

#### 佐々木部会長

これまでも通学している子ども達との差別感が無いような努力をしてもらいながら、何とか県として考慮してもらわなくてはいけないという方向性でしょうか。

時間も限られているので、定時制の今後の方向性に進みたいと思います。3～5ページに定時制の方向性についての専門委員会の意見があるのですが、もう使命を終えたのでいい、多様な生徒が入学していて目的が変わっているので必要、地域に1つくらいは必要だが2つある場合は統廃合してもいい、というような意見があります。東青地区は青森工業高校と北斗高校、下北むつ地区は田名部高校という形です。定時制教育の今後の方向性についてはいかがでしょうか。確かに以前の勤労青少年のためと言いますが、働きながら学ぶ子ども達のための定時制とは全く傾向は変わってきています。むしろ様々な問題を抱えた、集団になじめない子ども達の受け皿という部分が主になっているようです。工業高校の定時制については、使命が終わったのではないか、という意見が主のようです。

#### 遠島副部会長

田名部高校の定時制は46名で人数的にはそう多くはないのですが、今の話のように勤労青年の学びの場からは変化し、多様な学習ニーズや心や身体や経済的な悩みを抱えた生徒に対応しています。特に、むつ下北地区はそうだと思います。ただ、保護者は何とか頑張って昼に行かせたいと考え、無理しても昼に通わせているので人数的には少ないのですが、不登校で中学校はほとんど出席できなかった子が、定時制高校では毎日出席できるようになるという事もあり、そういう子のケアが十分できるのが今の定時制だと思います。必要性が無くなったと言うよりも、必要性がますます高まっていると思っています。工業高校の定時制については、やはりその役割は終わったと考えています。技術が進み、全日制の工業高校の生徒でも専門性を高めるのが難しくなっている中で、ましてや夜の少ない時間で専門性を高めるのはほぼ無理な状況です。それから、必ずしも工業高校の定時制に行きたくて行っているのではなく、場所が近いからとか、北斗高校は大き過ぎてやっていけない、という理由から来ており、決して専門的な事を学びたいという生徒はほとんどいませんし、進路もその専門性を活かした進路は取れていません。ですから、定時制は普通科がいいのではないかと思います。勿論、職業観を養うようなキャリア教育をしながらですが。

#### 佐々木部会長

定時制は必要ですが、工業高校の定時制は使命を終えたという意見ですがどうでしょうか。以前は脇野沢分校でも80人以上の生徒がいて、卒業生は脇野沢村のリーダーとして活躍するという時代ではあったのですが、その時に比べるとかなり役割は変わってきている気がします。様々な問題を抱えた子ども達に対する教育の在り方とすれば、定時制教育は特色ある教育活動ができるのではないかと思いますし、昼間や単位制といった



形の定時制に財政投資ができるのであれば、これはあってもいいのではという気持ちはありますが、県財政を考えると難しいのかなという思いがあります。

#### A 委員

アツギナイロンの工場があった事からか、昔は田名部高校に昼間部があったのですが、使命が終わって廃校になった訳です。下北むつ地区でただ1校の定時制ですので、やはり必要だと思っています。

#### 佐々木部会長

地区の意見として、定時制教育をこの先どうするかと展開して意見を言うのは難しい感じがします。地域の実情を考えると他の地域への通学は考えにくいですし、広めに下北むつ地区として考えたとしても、やはり田名部高校の定時制は現状として必要でしょう。例えばですが、北斗高校辺りを拠点校にしながら、地域に分室を置くという形で対応はできるのでしょうか。

#### 事務局

定時制はそれぞれの地域に数校、独立してあります。

#### 佐々木部会長

尾上総合高校にあるのは、通信制の分室なのですね。

#### D 委員

北斗高校と八戸中央高校は、午前・午後・夜間の3部制ですね。

#### 佐々木部会長

学校に行かなくても教育が受けられて卒業できるシステム、そういう事も考えられない訳ではないですね。

#### A 委員

これから考えられる学習の仕方です。放送大学もありますし。

#### 佐々木部会長

様子を見ながらという事でよろしいでしょうか。

#### D 委員

中学校の時に教育する中でつまづく子どもたくさんいますし、起き上がるように支援はしますが、そこでは立ち直れない子もいます。でも、定時制高校に行ったおかげで立ち

直るといふ事もたくさんありますので、そういう保証だけはして、そういう子を救えるようにしていただければありがたいと思います。

佐々木部会長

人数が少ないと1人1人にかかる時間が増えますので、これは全日制より手厚いと考えられます。そういう良さもありますし、下北むつ地区としては存続を希望するという事によろしいでしょうか。

青森工業高校の定時制については、使命が終わりつつあるという高校長協会の意見がいいですかね。

遠島副部会長

携わった人は必要だと思っているようです。

佐々木部会長

それでは10分間の休憩を入れます。休憩後に連携の話に入ります。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

佐々木部会長

第2専門委員会の中高連携と高大連携について、難しい話ですがそちらに移りたいと思います。今後の中高一貫教育を含めた中高連携の在り方についてという事ですが、中高一貫教育の事を主に言っているのだと思います。本県では、田子高校と大湊高校が連携型中高一貫教育、三本木高校が併設型中高一貫教育を行っています。

事務局

本県にはありませんが、中学校と高校が正に1つの学校としてある中等教育学校もあります。

佐々木部会長

私立では考えられるのでしょうか。

事務局

そうですね。途中に外からの生徒が入ってこない形です。

佐々木部会長

それでは、現時点では併設型と連携型だけを念頭に置きながら、その在り方について考えたいと思います。検討会議の意見は、併設型については地域の特色が活かされているといいが増やす必要はない、と捉えていいのでしょうか。要するに、判断する材料が少ないからもう少し見ましようという事ですか。

#### A 委員

大湊高校と大湊中学校の校長とお会いして、実態と今後の在り方について意見を伺ったので、それらを参考にしながらの意見です。実は、大湊中学校3年生の在校生は50人を切っていて、大湊高校の定員が200人ですので大湊中学校の全員が入っても4分の1です。また、一番危惧されるのは、大湊中学校へ行くと大湊高校へ行けるのだと地域住民や保護者が考え、勉強に対する姿勢が薄れる事です。初めて4年前に導入した時に、そういう事が見られました。他の地域の学校に行きたい子を除いて、ほとんどの大湊中学生が大湊高校へ入った訳ですが、一般試験を受けて入っている他の4分の3の生徒との学力差が見られるという事で、その後大湊中学校で選抜するようになった訳です。その結果、大湊中学校から行く率が少なくなり、もう中高一貫教育の意味をなさないので、何とか廃止させてくれと言われました。それでも、第2専門委員会でも廃止だという意見は私1人しかなく、津軽地方に作ってという意見もあるようです。そういう事を考えると、十和田市にできる併設型については非常にいいシステムだとは思いますが、下北むつ地区では地域的にとても当てはまらないのですから、現状を踏まえて見ると、大湊高校の中高一貫教育は廃止するべきだと思います。

#### 佐々木部会長

第2専門委員会の雰囲気としては、連携型はもっと増えていいという感じでしょうか。

#### A 委員

現在は田子高校と大湊高校に連携型があり、十和田に併設型ができるのですから、津軽地方には無いので作っていいのではないかという意見です。

#### 事務局

連携型という訳ではなく、中高一貫教育をという事ですね。

#### 佐々木部会長

併設型については、かなり可能性があり将来性を考えられるという意見のようですが、それは分かる気がします。6年間を通じて教育しますので。しかし、連携型は中高連携というレベルではあっていいという意見のようですが、実際の連携を考えるとあまり効果はないのではないのでしょうか。

A 委員

津軽地区に1校あってもいいと思いますが、それも併設型が望ましいと思います。田子高校は、中学校と高校の生徒数がちょうど均整がとれているからいいのです。

佐々木部会長

第2次実施計画策定時に、連携型について各地区にという意見はあったのですか。

事務局

第2次実施計画では2校だけで、特にはありませんでした。

佐々木部会長

この先も積極的には考えないのですか。

事務局

要望があれば考えます。

佐々木部会長

確かに様々なパターンの連携はありますが、教育効果や入試の事を考えると、連携型は問題が多いという意見は強いです。

A 委員

今の住宅事情を考えても大湊中学校は減って行き、大平中学校は増えて行く訳です。そういう事を考えると、先生方は一生懸命やっているのですが将来的にも連携型は望ましくないと思います。

佐々木部会長

連携型は反対です。大湊高校と大湊中学校の連携の効果を考えると、まず総合学科を止めて普通科に戻し、併設型にすると活きる感じはします。

A 委員

大湊高校は総合学科ですから、大湊中学校の卒業生の中にはやはり普通科に入って大学進学を目指すので田名部高校へ行くという生徒もかなりいる訳です。そうすると、大湊高校に行ってしまう訳です。

C 委員

今年は連携型で25名が入学しました。大湊中学校の卒業生は49人が50人でした。

A 委員

だいたい半分です。

佐々木部会長

そうすると、地区の保護者の理解がほとんど無いのですか。

事務局

もっと間口を広げるといいのではないかという意見もあります。大平中学校と大湊中学校の両方から、大湊高校へ来るような連携ができると変わってくるのではないのでしょうか。

A 委員

先生が大変なようですが。

佐々木部会長

場所的な問題があるのではないのでしょうか。大平中学校から大湊高校へ行くのは、市部から離れた所へ行くイメージがあります。昔であれば大平中学校も大湊中学校も大湊高校へ行くという雰囲気があったのですが、今は大平中学校は市の真ん中なので田名部高校に目が向いているのでしょうか。西寄りの脇野沢や川内の子どもも大湊高校を飛び越えて田名部高校へ行っている、そういう背景があります。

A 委員

昔は大湊の住民が運動を起こして、大平中学校と大湊中学校の生徒は全員が大湊高校へ行く事になっていました。

C 委員

昔は大平中学校から大湊高校へ行く生徒が多かったです。今年は実際に願書を出した人数は分かりませんが、第1次調査で田名部高校を志望した子は64名くらいで、半分くらいでした。

佐々木部会長

大湊高校については、総合学科になり連携型になった時点で将来性を危惧していました。その前に、大平中学校の大湊高校離れが始まった時に、もっと頑張らなくては生きられないと思いましたが、やはり、仕組みと地域の情勢も含めて、だんだん衰退してしまいました。田子高校の場合は、歴史を考えても町の体制を考えても生きる要素はたくさんあるのですが、当時市部にも中高一貫教育を考えなくてはいけないという事で大湊高校にも設置した訳です。むつ市には普通科は田名部高校と大湊高校があったので、両

方生きると思っていたのですが、1校になったので田名部高校も将来は死ぬのではないかと思います。切磋琢磨しながら下北むつ地区の教育を考えるのが一番いいと考えていたのですが、下北には様々な要素があるので難しいです。

#### A 委員

むつ市の教育長とも話したのですが、小学校も中学校も統廃合を考えなくてはいけない時期ですから、むしろ中高一貫教育ではなく小中一貫教育を考えた方がいいという話もしました。立派な校舎があっても生徒が少なく大変なようです。

#### 佐々木部会長

中高連携の必要性はかなり昔から言われていて、個別に連携しているという地域もいくつかあり大湊高校もそうでした。それが、関東の私立学校が中高一貫教育を導入し始めた事を背景に、公立学校でもという流れがあり国のかけ声で各県が何とかしなくてはいけなくなったのです。財政的に余裕があれば中等教育学校が一番いいのですし、または併設型がいいのですが、連携型はあまり実を結ばないパターンも多いのですが、教育委員会としてはお金のかからない連携型で中高一貫教育を導入したというスタイルを取らざるをえなかったのでしょうか。

#### A 委員

連携等の交流は進めて欲しいのですが、ただ一貫教育となると難しいです。

#### 佐々木部会長

併設型は可能性があるから欲しいという意見もあるようですが、田子高校の評価はいかがですか。

#### 事務局

評価が高いです。地域の協力も十分ですし、また中学校からの入学者数も多く、ほとんど外部からは入れない状態です。

#### A 委員

新聞では7～8人という事でした。

#### 事務局

中学校の段階で、試験の代わりにプレゼンテーションをさせているので力を付けているようです。表現する力が付いたり、物怖じしないで活動できるなどの効果があり、昔より大学へ行くようになったという事です。

佐々木部会長

地域事情が違うのでしょうか。昔から田子高校は田子町立的な感じでした。

事務局

以前は中学校が2校あったのが統合されて、1対1になりました。

佐々木部会長

むしろ、岩手県から田子高校に来たりもしていますか。

事務局

岩手県からは山を越えなくてはいけないので、あまり来ないです。

D 委員

校長会でも良く話題になっているのですが、大湊中学校の校長は苦しいので止めたいし、止めた方がいいと言っていますし、それを県でも発表しています。その一方で、田子中学校では非常に成果が上がっているのですが、その違いはどこからくるのでしょうか。田子中学校は自主的に必要があってやったようですが、大湊中学校はそうではなく、地域のバックアップ体制も子どもの意識も違うという話でした。いずれにせよ、実際にやっている当事者が言っているのですから、見直してもらった方が地域の子も達のためにはなると思います。そのための地区部会ですので、そういう声を大にしていいと思います。

佐々木部会長

地区の意見としては、大湊高校の連携型中高一貫教育についてはどうですか。

A 委員

地区部会としては、解消と声にしてもいいのではないですか。

佐々木部会長

一貫教育と言いながらも25人程度しか連携を図っていないのでは、中学校、高校あるいは教育委員会にも考える余地があるという事でよろしいですか。多分検討会議では個別の名前は出にくいと思いますが、連携型中高一貫教育には解消するべきと思われる学校もある、くらいには出して行きたいと思います。

E 委員

地域に合わないという事です。

佐々木部会長

併設型となると皆さん喜んで、となるのでしょうか。今大湊高校は何学級ですか。

事務局

5学級です。

佐々木部会長

大湊高校の中に中学校を同居させるとしても、十分な広さがありますよね。何にしても、大湊高校が生きる方策を立てて欲しいと思います。地区の意見としては、やはり大湊高校がベースでしょうか。それとも、田名部高校で併設型は考えられるのですか。

遠島副部会長

考えた事は無いですね。

佐々木部会長

田名部高校と田名部中学校という事ではなくてです。

A 委員

田名部高校の中高一貫についても、大湊高校に導入する時に考えると良かったのです。どうして大湊高校になったのだと思います。大湊高校と大湊中学校は2kmくらい離れています。

C 委員

今はそんなに離れていません。1kmあるかないかです。

佐々木部会長

次に高大連携についてです。事務局から、諮問書にある高大連携を考えなくてはいけない理由を読んでください。

事務局

高大連携の理由はごく簡単で、高校と大学の連携もその可能性を検討する必要がある、という話です。制度的には、大学やボランティアや他の分野の活動などの、自分の高校以外での活動を単位として認めるという事です。一方的な大学紹介ではなく、高校も大学に積極的に開いて交流して行くという事です。しかし、地区の事を考えると下北むつ地区には大学が無い訳ですから、なかなか考えにくいのですが。

A 委員



ノーコメントで。

佐々木部会長

昔は下北むつ地区に大学を誘致するという構想があったと思いますが。

A 委員

今も声だけはあります。実際に研究はしているのですが。

佐々木部会長

近隣に大学を抱えている地域、特に弘前辺りでは活発にやっている学校があるでしょうが、それをどの地域でもとなると歪みが生じます。普通高校は進学意識を高めるために、専門高校は共同研究を趣旨としてやるのです。そういうニュアンスがあります。

遠島副部会長

本校では2年生全員に、弘前大学から先生に来てもらって「弘前大学ドリーム講座」という事で授業をしています。生徒にこれからやりたい事を考えさせ、学習意欲の向上につなげたいと思っています。また、親や生徒を対象とした進学相談会や、生徒だけの大学見学会や、親だけの大学見学会も行っています。この地区ではなかなか高大連携は考えにくいのですが、そういう形では連携をしています。

佐々木部会長

何回もという訳にはいきませんが、総合的な学習の時間を活用して、出前講座と言いますか、大学教授に来てもらい講座を開く事は大体の高校でやっています。弘前みたいに高校が終わってから、大学へ行って授業を受けて単位に結びつけるという事は難しいのが現実です。

事務局

第2専門委員会の委員長は、こういう連携はどんどん進めるといいのでは、というくらいの話でした。諮問書にあるように、高大連携の可能性を検討するという事でかなり控え目ですので、それについて進めてはいかがでしょうかという事であれば、それも1つの答えなのではないでしょうか。国の高校教育改革の中でも流行廃りがあり、どんどん新しい項目が加わっています。その中に平成17年度辺りから高大連携という項目が出てきましたので、皆さんから意見をいただきたいという部分がありました。

佐々木部会長

大学もシビアで、学生を集めなくては経営が成り立たない時代です。各大学ともレベル的には若干下がってきているようですが、大学の経営と言いますか、学生を集めて経

営を確保するのが非常に難しい状態です。

一通り終わりましたが、校舎制、定時制、中高連携、高大連携について、これだけは話しておきたいという事がありますか。無ければこれで事務局に返したいと思います。

閉会

司会

長時間にわたり、ありがとうございました。3月22日に検討会議を行い、中間報告が出てある程度はまとまった形になってくると思います。次回は年度が明けて6月の開催予定ですが、それに対して地域の意見などをいただくという事になると思います。近くなった段階で再度お知らせします。

事務局

検討会議を3月、専門委員会を5月に開催する予定としています。次回は中間報告を基に、ここを直した方が良くという形で進むと思います。地域の意見として載せて欲しいという事もあるでしょうから、全てを拾える訳ではありませんが意見を出していただきたいと思います。

司会

それでは本日はこれで終わります。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。